「人・もの・情報」が行き交う魅力あふれる産業文化創造圏 VOL 東 50 令和3年3月

CERAMIC VALLEY Mino Japan

世界は美濃に憧れる。

デザイナー 佐藤 卓氏の想い

CERAMIC 入口 作家 **VALLEY** 地域 窯元 Mino Japan 環境 タイルメーカ· 地球 商社 歴史 事業者 文化 飲食店 想い メディア etc etc

セラミックバレーのロゴの右下にある赤い形 は、大きな円の一部です。その目に見えない 大きい円が、地域、環境、地球、そこに暮ら す人たちの想いなどさまざまなモノやコトを 意味しています。

「大切なものは目に見えない」

(サン・テグジュペリ『星の干子さま!)

セラミックバレーシンポジウム

今回の広域だよりでは、令和2年12月19日(土) に開催した「セラミックバレーシンポジウム~多様性 の統合により、世界に類を見ない地域を創造する~」 について特集します。新型コロナウイルス感染症対策 として定員の制限や検温などを行い、多治見市、瑞浪 市、土岐市、可児市の窯業界はもとより美濃焼関係者 の方が多く参加しました。シンボルマークをデザイン したクリエイティブディレクター佐藤卓さんをお招き し、オブザーバーに多治見市長、瑞浪市長、土岐市長、 可児市長が出席しました。

※4市長の想いは5ページ佐藤卓さんとの対談をご覧ください

第1部 セラミックバレー美濃構想と進め方

プレゼンター 株式会社 井澤コーポレーション

代表取締役社長 井澤秀哉 氏

セラミックバレー美濃構想とは、美濃のやきものと その文化をリブランディングし、産地と地域を活性化 する取り組みです。

4市には、美濃のやきものとその文化を広めようと、 それぞれの立場で頑張っている人がたくさんいます。 その一人一人、拠点拠点をこれまでの業界団体の垣根 を越えて線で結び、面とさせ、やがては強固な一枚岩 となって団結する姿を目指しながら、美濃のやきもの とその文化を、物販・観光の両面からこれまでにない 視点でリブランディングしていきたいと思います。

それを実現できる有形・無形の財産が存在すると確 信しています。

4市に暮らすすべての人たちによる民間ボトムアッ プ型・民間主導の同志的結合を目指し、行政には側面 サポートを期待しています。

基本理念を念頭に「世界は美濃に憧れる。」を国内外 へと発信し続けていくことこそが、「セラミックバレー 構想」に他なりません。

やきものを愛する人たちが、世界中からこの地に集 い、また我々の子どもや孫たちが自ら進んでこの地に 根差し、仕事をする価値と喜びを見出してもらえるよ うになれば、人口減少や事業継承の問題も自然と解決 できると信じています。

第2部 パネルディスカッション

林 セラミックバレー構想を改めて理解し、地域全体 へのさらなる盛り上げのきっかけとなるよう、改めて 何をしようとしているのか、誰のためのものなのかを お話いただきます。

井澤 この地域に愛情をもって活動された方は数多く います。その人たちの思いに目を向けて、未来に何が できるか考えていくことが大切です。情報やイベント に関わっている人たちが円卓会議として目と目を合わ せて話をすることで、4市の連携が早いスピードででき ると思います。

コーディネーター



林企画 代表林 弘之氏



株式会社 井澤コーポレーション 代表取締役社長 井澤秀哉 氏



株式会社 エクシィズ 代表取締役 笠井政志 氏



カネ定製陶 株式会社 専務取締役 籠橋亮介 氏



市原製陶 株式会社 代表取締役 金津 誉氏

クリエイティブ ディレクター 佐藤 卓氏

セラミックバレーのシンボルマークと「世界は美濃に憧れる。」のコピーは、日本文化に詳しいライターの橋本麻里さんや無印良品のネーミングを開発したコピーライターの日暮真三さんに声かけし、ディスカッションしてセラミックバレーという名前が生まれました。

世界から見たらこの産地は小さな場所の一カ所、多様性を個性と捉え、 セラミックバレーと呼ばれる場所にすることで、世界に類を見ない特別 な場所になります。



佐藤卓さん略歴

「ロッテ キシリトールガム」「明治おいしい牛乳」のパッケージや、「金沢 21 世紀美術館」「全国高等学校野球選手権大会」シンボルマークのデザイン、NHK E テレ「にほんごであそぼ」アートディレクター、「デザインあ」総合指導など多岐にわたって活動。

籠橋 10年ほど前から土岐市の支援を受けて「TOTTOKI」という活動をしています。美濃焼の原料、釉薬、土、メーカー、商社などを巻き込んで「縦と横のつながりを作りたい」「今までの組織でない組織を作りたい」という思いで活動をしてきました。お互いを知る、自分のことも知ってもらうために、「生工場」という工場見学会をやりました。今まで表に出る機会がなく人に見てもらえる場所がなかった「型」屋さんなどが、どんどん面白いことを考えて新しいことをやって、非常にいい効果が出たと感じています。

林 このエリアではイベントなどを集約しているところはあまりなく、現状それぞれでやっていますね。

籠橋 いろいろな業種の方とお付き合いさせてもらっているつもりですが、意外と知らないことが多いと感じます。コロナ禍においては SNS(インターネット上で利用者同士が交流するサービス。ラインやフェイスブック、インスタグラムなどのこと)を使って、「土」屋さんや「型」屋さんを回って体験したことを動画で見てもらえるように行動しました。また、土岐だけでもたくさんの祭りがあるので、集約し大きなイベントとすることで集客が上がり、みんなのモチベーションも上がると思います。それぞれの想いも大切にしながら、変化を恐れず、新しい考え方で連携して取り組むことで、素晴らしいものになると思います。

金津 本業は磁器食器のメーカーですが、瑞浪のやきものを世界に発信するための活動もしています。世界に美濃焼を発信していきたいと考えています。3市の原料メーカーで「GL21」という磁器のリサイクル食器のグループで力を入れて活動しています。

林 みなさんそれぞれの活動はまさしくセラミックバレー構想の大きい赤い円の一部ですね。

井澤 海外からのアーティストは「ストーリーは何か」 と必ず聞きます。誰が作ったかではなく、その先にあ る歴史や文化、原点です。例えば、可児市の久々利で 工房を持つことは荒川豊蔵氏の出発点であり魅力的な ことです。

林 円卓会議でそういった話が聞けることで、未来につなげていけるのではないかと思います。作家で食べている人は世界的に少ないと思いますが、この地にはそんな作家さんがたくさんいます。

籠橋 インフラとして土や釉薬、道具などすべてのものが揃っているので作家としては活動しやすい場所だと思います。

林技術的にも集約されていますね。

井澤 同志を増やしていくことが大切です。みんなが広めるという意識を持つ、その意味でセラミックバレーのシンボルマークやコピーが必要で、スピードと効果が期待できます。

佐藤 自然発生的に始まると面白くて意味のある現象になります。各市に若くてやる気のある人がいると思います。その人たちとどのようにつながるか、問題意識を持つというのは、自分の作品を作るだけでなく、産地の文化をどうやって未来に残していくか、そういった社会問題意識をもちながら活動していくことです。それがネットワークやエネルギーになり、同志を増やすことになります。歴史を作ってきた人に敬意を表しつつ、問題意識を感じて新しいやり方でやっている人が多くいます。そんな人たちが産地のために全体とし

オブザ<u>ーバー</u>



多治見市長 古川雅典



瑞浪市長 水野光二



土岐市長 加藤淳司



可児市長 富田成輝











て世界に目を向けてもらい世界に知らしめる努力、個性的な活動をしてもらったらいいと思います。いい例は日本各地にあります。他の伝統的な若者のことや世界の人たちのこともリサーチするといい、他の世界の人たちとつながってもいい。世界とつながると新しい発信ができるかもしれません。

林 「From MINO」「To MINO」は発信の仕方が重要です。手法として具体的に何ができるか、どこから始めればいいのでしょうか。

笠井 陶器は他の世界と少し違い、4 市みんなバラバラ で動いていると感じます。祭りでも各地でいろいろあ る状況ですが、みんなで同じ方向を向いて一致団結す ることが大切です。現在の陶器やタイルの市場は縮小 していることもあり、暗いイメージがあるかもしれま せんが、世界を見れば大きな市場があります。ただし、 そこに足を踏み入れるには重くて大きな扉があります。 でも、みんなで押して開ければバラ色の世界が待って いると信じています。シンポジウムをきっかけに一致 団結することが重要で、タイルも陶器も素晴らしいコ ンテンツをもった地場産業です。地場産業が2種類も あるというのは大きな武器です。「From MINO」(発 信)でいうと、今まではいい商品を作っていい企画を すればいいと思っていましたが、発信がないと意味が ありません。発信しないことには知ってもらえません。 購入してもらえないのです。国内では展示会で発信し ていましたが、今は SNS という無料の媒体があります。 いい商品・いい企画ならメディアも飛びついて無料で 発信してくれます。来た人も無料で広めてくれます。 そういう手法を取り入れて、地場産業の活性化を今一 度やるべきです。

つい最近、実は7年前に佐藤卓さんによる「美濃焼の解剖」という本の出版構想があったことを知りました。これを是非実現したいと思っています。本を作るプロセスで、例えば釉薬や土などについて深掘りするうちに、今それぞれの分野で活躍する方々も、先人の技術や情熱、想いなどを知ることになります。過去から現在、そして未来へとつなぎ残すことになるわけです。英語版も制作し世界へと発信していきたいですね。各々が気合を入れて、何とかして4年後13回目となる国際陶磁器フェスティバルに併せて発刊できるようスパートをかけたいです。

佐藤 解剖の話をさせてもらうと、NHK E テレの番組でも解剖という手法を使って子どもたちにデザインは面白いということを伝えています。日常的に知ってい

ると思っていることがほとんど知らないことだったり します。例えば今のペットボトルのフィルムは 10 年前 の強度とどう違うのか、お茶そのものがどうやって大 量生産されているのか、キャップは何から作られてい るのかなど、実はものすごい技術が入っています。ただ、 ペットボトルのお茶を飲むときにはそういったことは 関係なくて、お茶について知っているつもりになりま すが、質問をされてもほとんど答えられません。知っ ていると思い込むと、人はそれ以上知ろうとしません。 いかに知らないかを気付かせると人は知ろうとします。 その手法を解剖で使っています。解剖は知っていると ころから中に入っていきます。いつの間にか原材料に たどり着きます。モノづくりを伝えるときには、さか のぼって最初の段階から入っていくことが多いもので すが、解剖は逆のプロセスになります。だから、みん なついてきてくれるのです。突然、原材料や土、何万 年も前の話をされてもついてくることができません。 本をつくるという手法により、そのプロセスでいろい ろなコンテンツが生まれます。

井澤 セラミックバレー構想は「場」をデザインする構想で、セラミックバレーは「場」の名前です。この産地すべての場所がブランディングされ、今はものを軸としてやっていることを、場を軸としてプロモーションをかけることができます。4年間を通してイベントなどを行い、みんなで連携し発信することで世界からみつけてもらえると思います。

閉会のあいさつ

水野市長 セラミックバレーの世界観、未来観を感じることができたのではないでしょうか。美濃には最先端のニューセラミックス(新素材)があります。このセラミックバレー構想を実現していくために、プレイヤーが連携をとって前に進んでいくことが重要です。シンポジウムをきっかけとして、一つになり、実現に向けて連携を高めていきましょう。本日はありがとうございました。

※紙面の都合上、質疑応答など一部内容を割愛しています



佐藤卓さんと4市長の対談

シンポジウム開催前に、佐藤卓さんと4市長による対談を行いました。

司会者 シンポジウムのテーマは「多様性の統合により、世界に類を見ない地域を創造する。」です。まずは8年ほど前からこの地域の地方創生に向けて一緒に歩んできた佐藤卓さんから熱い想いをお話いただきます。

佐藤 デザインを通じて、地域の皆さんと一緒にセラミックバレーを長く育てていきたいと思っています。世界から見ても、この産地はとても素晴らしく、新しい世代の人たちとこの地を盛り上げていきたいです。コロナ禍で厳しい状況ですが、この財産を未来に向けてつなげていく、世界から見ればこの地は一つ、セラミックバレーと名付けることは、世界に発信する点で大きな意義があります。

古川市長 セラミックバレーの取り組みとして、今回は第2波だと捉えています。第1波においては行政主導により当事者不在となった、このことを反省点とし、今回の第2波は民間主導による若い経営者の力で推進されています。その根底にある4市の横串は伝統と文化です。この伝統と文化の象徴が可児市にある荒川豊蔵資料館です。

水野市長 陶磁器産業は歴史・文化そして芸術など伝統の中で育まれました。この 1300 年の伝統を生かし、伝統産業だけで終わらせないよう地場の基幹産業として大切にしながら未来に向かう時です。メーカーや商社だけではなく、周辺のさまざまな人や物があっての陶磁器産業です。地域全体の多くの人や物が交わりつながることを期待しています。

佐藤 素晴らしい考え方ですね。コロナが落ち着いた後には、世界の旅行者がこの産地にも訪れます。やきものの産地としての財産を生かしながら、さまざまな人や物がつながり、素敵な宿・おいしい料理・安らげる湯など総合的な力で魅力を伝えることが望まれます。

加藤市長 セラミックバレーは世界戦略として海外を意識した活動、その中で国際陶磁器フェスティバルがあります。「何でもできるが何もできない」多様性とならないような取り組みが大切です。担い手も多様であり求めていることは同じでも考え方が違っている、今までは議論する場がなかったので、今回のシンポジウムは有意義と感じます。これまでの蓄積・良さを生かし、誇りに思えるような活動になればと思います。

佐藤 美濃焼は日常の生活食器から人間国宝の手による茶碗まであり、美濃焼と聞いて1つの物を思い浮かべることは難しい、それこそが世界に類を見ない大き

な個性です。地元の人は当たり前過ぎて気付いていない魅力です。このことをポジティブに捉え豊かな地域としてモチベーションをつなげている、それぞれの分野で脈々と技術が受け継がれている人財を育てることができる素晴らしい地域なのです。

冨田市長 可児市は地場産業ではなく陶芸の地。市民の7~8割は外から来た人なので、可児に日本人特有の美意識を感じさせる桃山陶の地があることを知らない。子どもの頃から歴史や文化を伝えることで、まちを誇りに思い世界に通じる人財を育てていきたいと考えています。

佐藤 この産地を世界に向けて発信するには、1 つになっていくことが必要です。私も子どもの教育はすごく大事だと思い、NHK の子ども番組づくりに携わっています。身の回りのすべてがデザインだと考えると、美濃焼は器など日常にあるデザインの基礎・象徴です。見えない宝が山ほどあるこの地、子どもたちも知っているようで知らないことに気付くことで、自分たちのまちを誇りに思うようになるでしょう。

水野市長 業界は世代交代してきていて、新しい事業 展開を考えています。そんな若い世代にまちづくりに 参加してもらうことで、20年30年経ったまちを使う 人たちに、今まちをつくってもらわなければならない と考えています。進めるのはやはり人です。

佐藤 つながりがとても大切で、それぞれのまちに熱い想いをもっている若い世代が必ずいるはずです。

加藤市長 このセラミックバレーの取り組みを機会として「やっていいのかな」と思っている人たちが動くきっかけになればと思います。

冨田市長 がんばっている若い陶芸家も応援していきたいと考えています。生活の中で良質な器に触れることができるようなまちは、豊かなまちとなります。

古川市長 この「民間主導」の活動を各市長は同じ思いで、みんなで一緒に取り組みます。先人たちの素晴らしい財産を生かし若い世代が新しい道を切り開いていく、まさしく「温故知新」です。未来の子どもたちがまちに誇りをもち、誰もがしあわせを感じる、そんな仕組みが見えてきたと感じています。今日の朝日のようですね。

佐藤 改めて地域が一つとなって世界に発信するきっかけになることを期待しています。皆さんありがとうございました。

CERAMIC VALLEY Mino Japan オフィシャルムービーはこちら



東濃地域医師確保奨学資金等貸付制度



利用者の声



貸付制度を利用し、医療現場で活躍されている医師を紹介します。

今回ご紹介する方は、令和2年4月より土岐市立総合病院の小児科で勤務医として働 いている水野佑也先生です。水野先生は、平成20年度に開始した貸付制度の最初の利 用者でもあります。

貸付制度を利用した理由は何ですか。

医学部進学によってかかる授業料や教材費、下宿にかかる生活費などを奨学 金で補填することで、過度なアルバイトをせず学業に専念できると考えたため です。また、将来的に勤務病院を選ぶ際、地元での勤務に抵抗が無ければ就職 先も確保できるためです。

返還免除の条件である、東濃地域の指定病院で医 師として働くという部分もメリットになるという ことですね。

現在、医師として働いてみていかがでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年より患者数が大きく減っていま す。特に当院では学童や幼児においては RS ウイルスやマイコプラズマに感染 した患者さんが殆どいません。外出の自粛や手洗いうがい、マスク着用など患 者さんレベルでの対策を徹底するだけで、ここまで感染症の流行は抑制出来る のかと実感しています。



土岐市立総合病院 小児科 **水野 佑也** 医師 (34)

土岐市泉町出身 平成 20 年度 貸付決定者



注射を怖がる小さなお子さんへの予防接種のようす。

仕事にかける想い

医師の考える最善と、患者さんの求める医療は違う ことがあります。患者さんの目線で物事を考え、また 第三者の視点で考えて診療に携わりたいです。

医師を目指す方に一言

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、国民の意識 と医療のあり方が大きな変化を迎えています。その中 で医師を目指す皆さんには、新時代の医師の魁として 活躍して頂きたいと思っています。

皆さんの力が現場に新しい風を吹かせてくれるのを 楽しみにしています。

貸付制度について興味のある方は、次ページをご覧いただく か、東濃西部広域行政事務組合までお問い合わせください。



令和3年度

東濃地域医師確保奨学資金 貸付制度奨学生を募

指定する医療機関で一定期間勤務した場合、貸付金の返還を免除します!

あなたも将来、医師として東濃地域で 活躍してみませんか?



令和3年度奨学生の募集概要

令和3年4月1日の時点で医学部学生、医学部大学院生及び医師で臨床研修、 専門研修を受けている者又は受けようとする者であって、将来医師として指 資 格

定医療機関の業務に従事しようとする者

(1) 修学又は研修期間中: 月額20万円(年額240万円) 貸付金額

(2) 大学入学時:60万円(1回限り)

(1) 大学生奨学資金:正規の修学期間を限度とする。

(2) 大学院生奨学資金:正規の修学期間を限度とする。

貸付期間 (3) 研修資金:5年間を限度とする。

※重複して申請した場合の貸付期間は通算して6年間を限度とする。

多治見市民病院、東濃厚生病院、土岐市立総合病院、中津川市民病院、市立 指定医療機関

恵那病院、国民健康保険上矢作病院

貸付期間に相当する期間(診療科によっては、貸付期間の2/3の期間)指定 返償還免除

医療機関で医師として勤務した場合

指定医療機関に勤務できなくなった場合等は、貸付金総額と年10%の利息分 汳 澴 を一括で返還

書類及び面接による審査(6月中の土日のうちの1日で面接を行う予定) 選考方法

令和3年4月1日(木)~令和3年5月17日(月) 午後5時まで 応募受付期間

(書類必着)

問い合わせ先 東濃西部広域行政事務組合(電話 0572 - 22 - 1111 内線 1331)

※詳しくは当組合ホームページ (http://tono-seibu.org/syougakukin/index.html) をご覧ください。



狂犬病を知っていますか!!

狂犬病とは、狂犬病ウイルスを病原体とするウイルス性の感染症です。 狂犬病ウイルスは、犬だけでなく、人も含めた全ての哺乳類に感染します。人も犬も狂犬病を発症すると、治療法が無く、錯乱・全身けいれんなどの症状を示した後、ほぼ100%死亡する、大変恐ろしい病気です。 狂犬病発生とまん延防止のために、日本では犬の飼い主に、犬の登録(生涯1回)と狂犬病予防注射(毎年1回)が法律で義務付けられています。



これらに違反すると、20万円以下の罰金の対象になります。

※犬が病気や老衰などで、狂犬病予防注射の接種がご心配な場合は、かかりつけの動物病院の獣医師にご相談ください。必要に応じて「狂犬病予防注射猶予証明書(注 1)」が発行された場合は、(獣医師または飼い主が)市の担当課窓口に証明書を提出をしてください。

(注1) 猶予期間は原則として1年です。長期にわたる病気の場合でも、毎年の提出が必要です。

狂犬病予防注射のお知らせ

令和3年度の狂犬病予防注射の集合注射を右記の日程で実施します。開催場所及び時間は、 案内ハガキ、各市広報紙・ホームページまたは 広域組合ホームページでお知らせします。

なお集合注射で接種できない方は、動物病院 で予防注射を受けてください。

	期日	広報掲載
瑞浪市	4/13 (火) ~ 4/16 (金)	3/15号
土岐市	4/19 (月) ~ 4/23 (金)	3/15号
多治見市	5/10 (月) ~ 5/18 (火)	4/1 号



狂犬病予防注射の案内ハガキを、3月下旬に郵送します。

集合注射会場や動物病院で予防注射をするときや、市役所で注射済票の交付申請をするときには、 必ず「案内ハガキ」を持参ください。

問い合わせ先









〒 507-8703 多治見市日ノ出町 2 丁目 15 番地

☎ 22-1111(内線 1331) ホームページ http://tono-seibu.org/



